

特集 (*Special feature*)

## 二神二郎先生への感謝をこめて

### Happy Retirement of Professor Jiro FUTAGAMI



二神二郎 教授  
Professor Jiro FUTAGAMI

---

## 二神二郎 教授 略歴

### Academic Career of Professor Jiro FUTAGAMI

#### 教育・研究歴(職歴を含む)

##### Academic Career

1973年(昭和48年)3月 愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻 卒業

March 1973: Bachelor of Fine Arts, Aichi University of the Arts and Music

1975年(昭和50年)3月 東京芸術大学大学院オペラ科 修了

March 1975: Master of Fine Arts, Tokyo University of the Arts

1988年(昭和63年)4月 愛知県立芸術大学 専任講師

April 1988: Lecturer, Aichi University of the Arts and Music

1992年(平成4年)4月 愛知県立芸術大学 助教授

April 1992: Associate Professor, Aichi University of the Arts and Music

1999年(平成11年)4月 愛知県立芸術大学 教授

April 1999: Professor, Aichi University of the Arts and Music

2015年(平成27年)7月 愛知県立芸術大学 名誉教授

July 2015: Emeritus Professor, Aichi University of the Arts and Music

2016年(平成28年)4月 椙山女学園大学 教育学部 客員教授

April 2016: Professor, School of Education, Sugiyama Jogakuen University

2021年(令和3年)3月 椙山女学園大学 教育学部 定年退職

March 2021: Happy Retirement, School of Education, Sugiyama Jogakuen University

#### 社会的活動

##### Social Activities

1978年(昭和53年)4月 日伊協会会員 (現在に至る)

April 1978: Membership, Associazione Italo-Giapponese

2002年(平成14年) 愛知県文化振興事業団オペラオーディション審査員 (平成26年まで)

2002: Examiner of Audition, Opera Project, Aichi Prefectural Art Theater

2013年(平成25年) 文化庁 新進演奏家育成事業オーディション審査員 (現在に至る)

2013: Examiner of Audition, Opera Project, Agency for Cultural Affairs, Japan

2015年(平成27年) 瀧廉太郎コンクール審査員 (現在に至る)

2015: Examiner of Audition, TAKI Rentaro Voice Competition, Taketa City, Japan

## 二神二郎 教授 研究目録

### List of Research Activities, Professor Jiro FUTAGAMI

#### 1. 国際コンクール受賞 Award history of international competition

- 1) ベニアミーノ・ジージ国際コンクール 2 位, 1978 年(昭和 53 年) 7 月.  
July 1978: 2nd prize in the Beniamino Gigli International Competition
- 2) パヴィア国際コンクール 3 位, 1978 年(昭和 53 年)10 月.  
October 1978: 3rd place in the Pavia International Competition
- 3) ストレッポニ国際コンクール 2 位, 1978 年(昭和 53 年)12 月.  
December 1978: 2nd prize in the Streponi International Competition
- 4) スカラ座国際コンクール 1 位, 1979 年(昭和 54 年) 6 月.  
June 1979: 1st prize in the Teatro alla Scala international competition
- 5) トリノ国際コンクール 1 位, 1979 年(昭和 54 年)12 月.  
December 1979: 1st prize in the Turin International Competition
- 6) アレッサンドリア国際コンクール 1 位, 1980 年(昭和 55 年) 6 月.  
June 1980: 1st prize in the Alessandria International Competition
- 7) ジュネーブ国際コンクール銀賞, 1983 年(昭和 58 年)12 月.  
December 1983: Silver Award in the Geneva International Music Competition

#### 2. レコード(CD) Record (CD)

- 1) 二神二郎テノールリサイタル (単独), 1994 年(平成 6 年) 6 月, ナゴヤディスク, 曲目:  
Turina, List. Meyerbeer, Flotow, 等  
June 1994: IL RECITAL DI TENORE, Jiro FUTAGAMI, Piano, Mioko KATO, Nagoya Disk Co., Ltd., VOXEE VXD-93329.
- 2) Jiro FUTAGAMI & le Mani (共同), 2000 年(平成 12 年)11 月, Le Mani Denza, Tosti, Leoncavallo. 等

#### 3. その他 Publication

- 1) 二神二郎 (2018) 1980 年のイタリアのオペラ界事情—ミラノ・スカラ座若手団員としての出発点—, 梶山女学園大学教育学部紀要, **11**: 117-126.  
FUTAGAMI Jiro (2018) Circumstances of the opera production in Italy in 1980: Beginning of carrier as the Milan Scala Theater of young person member. *Journal of the School of Education, Sugiyama Jogakuen University*, **11**: 117-126.



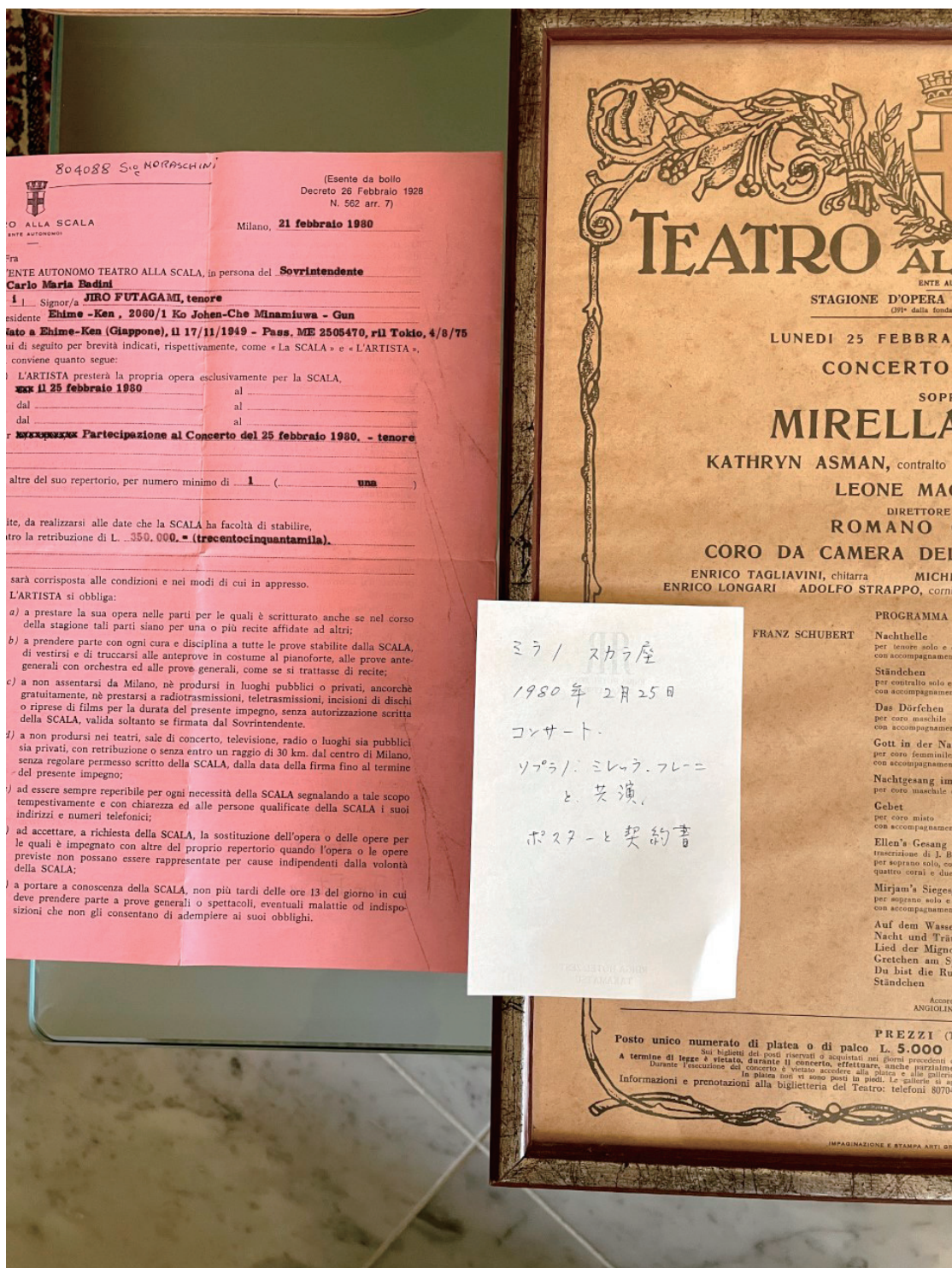


図1. ミラノ スカラ座 1980年2月25日 コンサート ソプラノ：ミレラ・フレニと共演 ポスターと契約書

Fig. 1. Contract and poster of the concert at Teatro alla Scala in 25 February 1980



**TEATRO ALLA SCALA**  
ENTE AUTONOMO  
STAGIONE D'OPERA E BALLETO 1979/80  
(OP+ della Fondazione del Teatro)

ABBONAMENTO RECITAL  
e FUORI ABBONAMENTO

LUNEDI 25 FEBBRAIO 1980 - ORE 20.30  
CONCERTO DI CANTO

SOPRANO  
**MIRELLA FRENI**

KATHRYN ASMAN, contralto JIRO FUTAGAMI, tenore  
LEONE MAGIERA, pianista  
DIRETTORE DEL CORO  
ROMANO GANDOLFI  
CORO DA CAMERA DEL TEATRO ALLA SCALA

ENRICO TAGLIAVINI, chitarra MICHELE BERRINO STEFANO ALESSANDRI  
ENRICO LONGARI ADOLFO STRAPPO, corni OVIDIO DANZI RENATO MUSI, fagotti

**PROGRAMMA**

FRANZ SCHUBERT	Nachtheile per tenore solo e coro maschile con accompagnamento di pianoforte	Chiarore notturno
	Ständchen per contralto solo e coro femminile con accompagnamento di pianoforte	Serenata
	Das Dörfchen per coro maschile con accompagnamento di chitarra	Il villaggio
	Gott in der Natur per coro femminile con accompagnamento di pianoforte	Dio della natura
	Nachtgesang im Walde per coro maschile e quattro corni	Canto notturno nel bosco
	Gebet per coro misto con accompagnamento di pianoforte	Preghiera
	Ellen's Gesang II trascrizione di J. Brahms per soprano solo, coro femminile, quattro corni e due fagotti	Canto di Ellen II
	Miriam's Siegesgesang per soprano solo e coro con accompagnamento di pianoforte	Canto di vittoria di Miriam
	Auf dem Wasser zu singen Nacht und Träume Lied der Mignon Gretchen am Spinnrade Du bist die Ruh Ständchen	Canto sull'acqua Notte e sogni Canzone di Mignon Margherita all'arcolaio Tu sei la quiete Serenata

Accordatore  
ANGIOLINO LEALI

**PREZZI (Tasse comprese)**  
erato di platea o di palco L. 5.000 - Posto unico numerato di I° o di II° galleria L. 2.000  
biglietti dei posti riservati o acquistati nei giorni precedenti quello del concerto si applica il 10% di servizio di prenotazione.  
vietato, durante il concerto, effettuare, anche parzialmente riprese filmate o registrazioni e scattare fotografie in sala e nei ridotti.  
In platea non si sono posti in piedi. Le gallerie si aprono alle ore 19.30; platea e palchi alle ore 19.45.  
Informazioni e prenotazioni alla biglietteria del Teatro: telefoni 807041/2/3/4; orario dalle 10 alle 13 dalle 15.30 alle 17.30 (lunedì chiuso)

IMMAGINAZIONE E STAMPA ARTI GRAFICHE CONFALONIERI - MILANO

図2. ミラノ スカラ座 1980年2月25日 コンサート ソプラノ：ミレラ・フレニと共演 ポスター  
Fig. 2. Poster of the concert at Teatro alla Scala in 25 February 1980









図 4. ジュネーブ国際コンクール銀賞 1983年12月

Fig. 4. Silver Award in the Geneva International Music Competition in December 1983

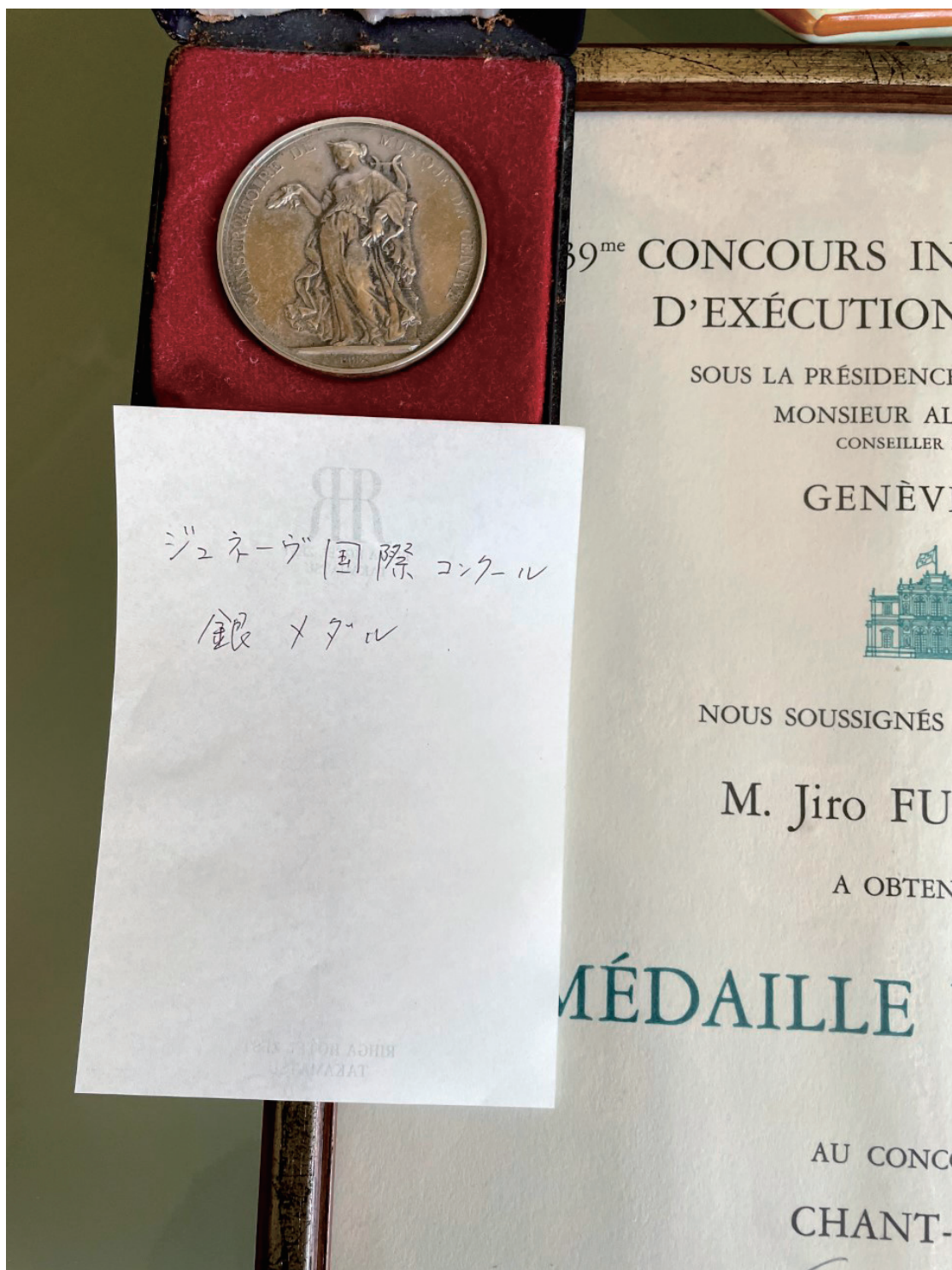


図 5. ジュネーブ国際コンクール銀賞 銀メダル 1983年12月

Fig. 5. A medal of the Silver Award in the Geneva International Music Competition in December 1983





図6. 二神二朗 テノールリサイタル プログラム表紙 1991年5月21日 コンサートホール

Fig. 6. Cover of concert program, IL RECITAL DI TENORE, Jiro FUTAGAMI in 21 May 1991

---

## PROGRAMMA

### P. Cimara

Stornello  
A una rosa  
Visione Marina  
Canto di Primavera

### チマーラ

ストルネッロ  
薔薇に  
海の幻景  
春の讃歌

### F. P. Tosti

Quattro cauzioni di Amaranta

### トステイ

アマランタの四つの歌

---

### F. J. Obradors

Dos cantares populares  
Con amores, la mi madre  
El vito  
Coplas de Curro Dulce

### オブラドルス

二つの民謡  
母上、愛に抱かれて  
エル・ビート  
クーロ・ドゥルセの唄

### G. Donizetti

Cerchero lontana terra  
(Opera : Don Pasquale)

### ドニゼッティ

遙かな土地を求めて  
(オペラ：ドン・パスクワレ)

### W. A. Mozart

Un'aura amorosa  
(Opera : Così fan tutte)

### モーツァルト

愛のそよ風は  
(オペラ：コシ・ファン・トゥッテ)

### J. Massenet

Pourquoi me réveiller  
(Opera : Werther)

### マスネー

春風よ、なぜ私を  
(オペラ：ウェルテル)

図 7. 二神二郎 テノールリサイタル プログラム曲目 1991年 5月21日 コンサートホール  
Fig. 7. List of music on concert program, IL RECITAL DI TENORE, Jiro FUTAGAMI in 21 May 1991





## 二神 二郎

愛知県立芸術大学音楽学部卒業、東京芸術大学大学院オペラ科修了。1975年イタリアのミラノに留学、1980年ミラノスカラ座オペラ研究所修了。神田詩朗、寛義也、柴田陸、アリーゴ・ポーラ、エドアルド・ミューラー、リア・グマリニ、アントニオ・ベルトラミ、ワルテル・バラッキ各氏に師事。1978年ベニアミーノ・ジュー国際コンクール第2位、ジュゼッピーナ・ストゥレツポニ国際コンクール第2位、パヴィア国際コンクール第3位、1979年スカラ座国際コンクール第1位、トリノ国際コンクール第1位、1980、81年アレクサンドリア国際コンクール第1位、1982年ブダペスト国際コンクール第1位、1983年ジュネーブ国際コンクール第3位。

ブレーシャ大歌劇場にて「セヴィリアの理髪師」のアルマヴィーヴァでデビュー。その後、「秘密の結婚」のパオリーノ、「コシ・ファン・トゥッテ」のフェランド、「ドン・ジョヴァンニ」のドン・オッターヴィオ、「ファルスタッフ」のフェントン、「愛の妙薬」のネモリーノ、「チネレントラ」のドン・ラミーロ、「結婚手形」のミルフォルト、「ドン・パスカル」のエルネストなどに出演し、ミレラ・フレニ、ヘレン・ドナート、レオ・ヌッチ、ルチア・アリベルティ、ルイジ・アルバラと共演している。

13年にわたるイタリア滞在中出演した歌劇場は、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、モデナ市立歌劇場、ボローニャ市立歌劇場、マチェラータ野外歌劇場、リッレ大歌劇場、リエージュ歌劇場、ブダペスト国立歌劇場、リオ・デ・ジャネイロ市立歌劇場など、数十ヶ所を数え、コンサート活動もヨーロッパ各地に及んでいる。現在、愛知県立芸術大学講師。二期会会員。



## 宮原 峠子

名古屋生まれ。愛知学芸大学附属名古屋中学校（現・愛知教育大附中）卒業。桐朋学園女子高等学校音楽科卒業。桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。西ドイツ ロバート・シューマン音楽院（現・ラインラント国立音楽大学）マイスタークラス修了。

4才よりピアノを始める。長松一枝氏、稲垣寿子氏、田代ゆかり氏、井口秋子氏、L.コハンスキー氏、M.M.シュタイン氏、K.シェファール氏、G.ヒンターホーファー氏、O.ケーベル氏、P.ショイモシュ氏に師事。

国内及び西ドイツ、ベルギー他各地にてソロリサイタルの他、協奏曲、室内楽、伴奏の演奏会を開く。NHK（TV、FMを含む）、日本テレビ、FM愛知、西ドイツ・バイエルン放送、シュツットガルト放送、ケルン放送、ハンブルク放送他から放映、放送。M.クライ氏、渡辺暁雄氏、森正氏、山岡重信氏、福村芳一氏、他の指揮により西ドイツ各地のオーケストラ、京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー、他と協演。

桐朋学園大学理事長賞を受ける。（1966年）ケルン・ボン・デュッセルドルフ地区と名古屋地区のロータリークラブより、西ドイツ留学のための奨学金を得る。（1967年）

ミュンヘン国際音楽コンクール2等賞（1等該当者なし）。（1968年）

クロード・カーン国際ピアノコンクール（仏・パリ）審査員。（1990年）

桐朋学園音楽教室鎌倉分室教師、愛知県立芸術大学音楽学部講師。

図8. 二神二郎 テノールリサイタル 演奏者紹介 1991年5月21日 コンサートホール

Fig. 8. Artists introduction, IL RECITAL DI TENORE, Jiro FUTAGAMI in 21 May 19





特集 (Special feature)

二神二郎先生への感謝をこめて (Happy retirement of Professor Jiro FUTAGAMI)

# 聴き手の想像力を超える表現を

——二神二郎先生との1つの対話——

**Aim for musical expression that exceeds the imagination of the audience!: An interview with Professor Jiro FUTAGAMI**

渡邊 康<sup>\*</sup>  
WATANABE, Koh<sup>\*</sup>

宮田 俊雄<sup>\*</sup>  
MIYATA, Toshio<sup>\*</sup>

キーワード：3分間の音楽表現，想像力，意外性，聴き手，イタリア，オペラ

Key words：three minutes musical expression, imagination, surprise, audience, Italy, Opera

——演奏することにおいて心掛けていらっしゃることをいろいろ印象深く教えていただきました。その中でも「聴き手の想像力を超える表現」についてさらに教えてください。

二神：人間は正直飽きやすいですね。楽器によって例えばピアノなら1時間とか30分とかの演奏時間がありますけど、我々の歌は3分で表現しなきゃいけない。ですけど、その3分でも聴き手は飽きてします。あれはなんだかんだと考えてしまいます。そこでこの3分にいろいろ詰め込まなきゃいけない。だけどその表現がストレートだと聴き手はもうすぐにあれこれ考えてしまいます。3分でもお客さんは飽きるんですよ。そこで私はその3分を飽きさせないようにと、常に思っています。とにかく表現の色を変える、あらゆることを3分に詰め込む、あとは長いことやってきて最も大事と思うことは、意外性だと思います。引っぱってきて引っぱってきてその最後に、なるほどと唸らせるにはどうしたらいいのだろうと頭をひねるし、自分なりに一生懸命考えることです。

イタリア人はとにかく感動する天才なんです。日曜日の教会で「いいお天気ですね!」「なんてあなたは美しいんでしょう!!」と、とにかく感情を表に出すのです。私はそのイタリアで20代の成長する時を過ごしたことが大きいです。日本人はどうしても感情を閉じ込めてしまう。イタリアでの生活は感情を外に出すことを教えてくれた。舞台ではそれをしないとお客さんは満足しないのです。真剣勝負なんでね。黄色くて小さいつぶれた顔の東洋人が、それをしなければ次も呼んでくれませんのでね。そんな東洋人に伝統芸術がわかるのかという世界です。そういう人たちに負けないようにするには、人よりも工夫して学びながら自分なりの、自分しかできないものを、バランスを考えてやるのです。今だったらできるのに、といった事は人間な

らたくさんありますよね。でも勉強する過程で今できるベストのことをやってみる。今聞くと恥ずかしいものもありますが、当時はできることのベストをやっていたのだなと思います。とにかく飽きさせないことが大事なのかなと思います。

——ピアノの音などは何かと全部メゾフォルテに聴こえて変化がなさすぎると思いますね。

**二神：**ただ楽器にはその楽器なりに別の思考があるので、それで時間がかかるのかなと。頭脳のほうでたくさんやらなきゃいけないことがあるような気がしますね。歌は感性が8割くらいかなと思います。感性のボタンを押してやればすぐ声が出ますものね。

教える側にもたくさん感性の引き出しがあれば良いですからたくさん経験することが大事なのかなと思います。

——声楽の場合の基礎はやはり発声練習なのでしょうか。

**二神：**いかに声を自分の意志どおりに使えるかってことで、ピアノも指が自分の意志どおりに動いてくれて、音が出せるようになること、それが基本ですね、音としては。歌は持って生まれた声は変えられないですけど、それをどこまでいろんな音色を見つけられるかというのは努力だし、オペラに限ると曲芸ですから高音が出なきゃいけない。ハイCみたいなものですよね。若い時はいかに安定して良い音色出すことができるか、ひたすらそんな世界に明け暮れましたが、歳をとってくるとそれはもうできなくなりますが、それに代わるものを探せばいいのかと。結局何かをパワーに替えればいいのですよね。音楽はいろんなことでパワーに替えることの技術があるので、そこは経験とともに変わっていけばよいのだと思います。とにかく人間は衰えますので、昨日とおなじ声が出せるには節制と努力をしなければいけない。出てると思っても多分出てない。そこは謙虚になって自分の声を聴かなきゃいけないと、気を付けないといけないと思います。

——梶山で教えていただいた5年間ありがとうございました。専門教育で教えてこられて後にこの教育学部で教えられたわけですが、こういった印象をお持ちでしょうか。

**二神：**生徒を見るととき必ず眼を見ることにしているのですが、この学校に来て最初に気が付いたことは、眼が輝いていてここはよい学校だと素直に思いました。だからここで5年間やってみようかなと思いました。たいてい話すと、今の学生は眼をそらすのですよ。でも梶山では邪心なく先生の顔を見ながら歌える人が多いです。



上達するポイントは聴く耳を持つということだと思います。先生や師匠の言葉を聴くことができれば進歩が速いと思います。ですからこの学生さんは話したら聴いてくれて進歩するだろうなと思いました。最初はどうかと思ったらこの学生さんたちを導いていけるのかをつかむのに1年ぐらひは時間がかかりました。音楽の専門大学に来る学生は基礎がすでにできてきているわけですが、入学してから基礎を勉強しなきゃいけないというわけですから、そのような4年間のプランを考えました。それで次につながることを教えればいいんだと思った時に先に進めることができたと思います。プロの音楽家になれる人は少ないですし、教員になる学生が多いわけですから。私の役割は少しでも上を目指すことができる、むやみやたらにがんばれ！というのではしょうがないので、手助けができるのが我々の仕事かなと思いました。一番大事なのはよく観察しての学生の長所を見つけることだと思います。

——先生には合唱舞台を学生と作っていいいただいて、多くの方に観ていただいて喜んでもらい成果がありました。

**二神**：正直言って私は合唱得意ではないのですが、ここの学校では何人か集まると力が出せるという特徴がありますので、この合唱の場が学生たちを成長させることのできる場であると思いました。合唱を通じて力を伸ばせるかなと感じました。みんなで歌うハーモニーは素晴らしいんだと声をかけていました。

1回でも多くお客さんの前で歌う、それを肌で感じる事が大事な事なのでからチャンスを作って、コンサートの機会を作ってもらって合唱をできたことはすごく良かったです。

2020年12月19日：椋山女学園大学教育学部 宮田俊雄研究室にて